

NEC

WebOTX Administrator V10.1

UL1519-U02

インストールガイド (Windows)

ごあいさつ

このたびは、WebOTX Administrator をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、お買い上げいただいたセットの内容の確認、インストールの内容を中心に構成されています。WebOTX Administrator をお使いになる前に、必ずお読み下さい。

WebOTX は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

OracleとJava は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Intel は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

目次

1. 動作環境	1
ソフトウェア要件	1
複数バージョンインストール	3
必要リソース	4
2. インストール	5
構成品の確認	5
インストール前の作業	5
インストール	8
環境構築	13
環境構築後の作業	19
3. WebOTX Application Server との接続	20
4. サイレントインストール	22
5. アンインストール	24
アンインストール	24
6. 注意事項	27

1. 動作環境

ソフトウェア要件

WebOTX Administrator がサポートする基本ソフトウェア(OS)と、必要なソフトウェアを説明します。

● オペレーティング・システム(OS)

動作対象の OS として 32 ビット環境の場合には、次の種類をサポートします。

Windows® 10 Pro (バージョン 1607 (ビルド 14393) 以降) (※4)

Windows® 10 Enterprise (バージョン 1607 (ビルド 14393) 以降) (※4)

Windows® 10 Education (バージョン 1607 (ビルド 14393) 以降) (※4)

Windows® 8.1 Pro (※4)

Windows® 8.1 Enterprise (※4)

Windows® 8 Pro (※4)

Windows® 8 Enterprise (※4)

64 ビット環境の場合は、以下のとおりです。

Windows Server® 2016 Standard(※1, 2, 3)

Windows Server® 2016 Datacenter(※1, 2, 3)

Windows Server® 2012 R2 Standard(※1, 3)

Windows Server® 2012 R2 Datacenter(※1, 3)

Windows Server® 2012 Standard(※1, 3)

Windows Server® 2012 Datacenter(※1, 3)

Windows® 10 Pro (バージョン 1607 (ビルド 14393) 以降) (※4)

Windows® 10 Enterprise (バージョン 1607 (ビルド 14393) 以降) (※4)

Windows® 10 Education (バージョン 1607 (ビルド 14393) 以降) (※4)

Windows® 8.1 Pro (※4)

Windows® 8.1 Enterprise (※4)

Windows® 8 Pro (※4)

Windows® 8 Enterprise (※4)

- (※1) Server Core としてインストールした場合は未サポートとなります。
- (※2) Nano Server としてインストールした場合は未サポートとなります。
- (※3) 分離トポロジにおける Web サーバと Web コンテナ連携機能をサポートします。
- (※4) 分離トポロジにおける Web サーバと Web コンテナ連携機能は未サポートです。

●必須ソフトウェア

WebOTX Administrator を実行するには、Java Platform, Standard Edition の SDK が必要となります。サポートする SDK バージョンは次のとおりです。

- ・ Java SE Development Kit 8 (Update 144 以降)

適用する Java SE の SDK のメンテナンス・バージョンは、最新版を推奨します。なお、各 SDK のバージョンには、次の注意・制限事項がありますのでご注意ください。

- Oracle 社が提供する SDK のみをサポートします。
- Windows 32 ビット OS と Intel 64 の組み合わせは、32 ビットモードで動作します。
- WebOTX Media は Windows に対応した Oracle 社製の Java SE の SDK をバンドルしていますが、WebOTX Media 及び本製品は Java SE の SDK の保守を提供していませんので、ご了承ください。

複数バージョンインストール

WebOTX V10.1からWindows版において、ひとつのOSへ複数バージョンをインストールすることが可能になりました。このインストール条件は、製品のメジャーバージョンとマイナーバージョンが異なることです。

(例)「WebOTX AS V9.4」と「WebOTX AS V10.1」

そのため、1つのバージョンの製品を異なるインストール・ベースディレクトリにインストールすることは不可です。また、リリース時期により詳細バージョンが異なる場合もサポートされません。

(例)「10.10.00.000」と「10.11.00.00」

このバージョン番号は、WebOTX運用管理コマンド「otxadmin」で確認できます。

本バージョンで複数バージョンインストールに対応している製品は以下のとおりです。(製品バージョンは省略)

WebOTX Application Server Express
WebOTX Application Server Standard
WebOTX Developer
WebOTX Administrator
WebOTX Client

上記の製品とそれ以外のWebOTX製品を同時にインストールする場合、異なるバージョンの上記製品をインストールすることはできません。

本バージョンの複数バージョンインストールの共存対象バージョンは、2つ前のメジャーバージョン、かつ本バージョンが諸元としてサポートしているOSの範囲内です。

プラットフォーム	WebOTXバージョン			備考
	V7以前	V8	V9	
Windows(x86)	対象外	対象外	V9.2～9.5	
Windows(x64)	対象外	V8.4 (*1,2)	V9.1～9.5 (*2)	(*1)Windows Server 2012 は、WebOTX Media (x64) V8.5のCD/DVD-ROM媒体のRevision 8.52からインストール時のみサポート

必要リソース

●必要ハードディスク容量

プラットフォーム	<u>必要ハードディスク容量</u>
Windows - Intel x86	130MB
Windows - Intel 64	

※選択インストール可能な機能をすべてインストールした場合の容量です。アプリケーションやそれを実行するためのライブラリを格納するための容量は含んでいません。

●必要メモリ量

プラットフォーム	<u>必要メモリ量</u>
Windows - Intel x86	最小 96MB、推奨 384MB 以上
Windows - Intel 64	最小 96MB、推奨 512MB 以上

●必要解像度

1024 x 768 、16 ビットカラー以上を表示可能であることを推奨します。

2. インストール

V10 からインストールと環境構築の連続実行と分離実行を選択することが可能となりました。

構成品の確認

本製品にインストール用の DVD-ROM 媒体は含まれていません。製品全体の構成品に関しては構成品表を確認してください。

インストール前の作業

インストール時の注意事項を以下に示します。

- 本製品をインストールするには、利用プラットフォームに対応する WebOTX Media 製品に付属の DVD-ROM 媒体が必要です。

WebOTX Media は出荷時期及び対応プラットフォームにより収録製品とバージョンが異なりますので、製品 Web サイト(<http://jpn.nec.com/webotx/index.html>)もしくは WebOTX Media のインストールガイドにて 本製品が収録されていることを確認してください。

<32 ビット OS>

動作環境(OS ビット数,CPU)	型番、製品名	備考
Windows 10 Windows 8.1 (32 ビット OS, CPU x86/x64) Windows 8 (32 ビット OS, CPU x86/x64)	UL1519- *1S WebOTX Media V10 Release x (DVD)	"*"は出荷時期により変わります。 "x"にはリリース番号が入ります。 DVD-R メディア 64 ビット OS 用メディアには 32 ビット OS 用と 64 ビット OS 用の両方のインストーラが収録されています。

<64 ビット OS>

動作環境(OS ビット数,CPU)	型番、製品名	備考
Windows Server 2016 (64 ビット OS, CPU x64) Windows Server 2012 R2 (64 ビット OS, CPU x64) Windows Server 2012 (64 ビット OS, CPU x64) Windows 10 (64 ビット OS, CPU x64) Windows 8.1 (64 ビット OS, CPU x64) Windows 8 (64 ビット OS, CPU x64)	UL1519- *1S WebOTX Media V10 Release x (DVD)	"*"は出荷時期により変わります。 "x"にはリリース番号が入ります。 DVD-R メディア

- インストールは必ず管理者権限があるユーザで行なってください。

インストールを行う場合は、Built-in Administrator ユーザで行うか、管理者権限のあるユーザでも「管理者として実行」によりインストーラを起動してください。

Windows 版のインストーラはレジストリへの書き込みを行います。以下のレジストリキーに SYSTEM ユーザ及び Administrators グループの書き込み権限が設定されていることを確認してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC (*1)

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC (*1,2)

*1 存在しない場合は上位のレジストリキーに権限が設定されていることを確認してください。

*2 64bit 版 Windows にインストールする場合のみ確認してください。

- 事前に Java SDK をインストールしてください。
- Web サーバと Web コンテナとの連携について

静的コンテンツの処理と動的コンテンツの処理を別マシンや別プロセスに分離できるよう、Webサーバと連携することが可能です。Webコンテナが動作するWebOTX Application ServerとWebサーバを同一マシンで構成することを「共存トポロジ」と呼びます。また、WebOTX Application ServerとWebサーバを異なるマシンで構成することを「分離トポロジ」と呼びます。

WebOTX Administratorでは、「分離トポロジ」のWebサーバとして動作するマシンにおいて、以下のWebサーバの連携設定が行えます。連携可能なWebサーバの詳細は、WebOTX Application Serverのインストールガイド(Windows)の「2. 動作環境」の「ソフトウェア要件」のWebサーバを参照してください。

- Apache HTTP Server
- Microsoft Internet Information Services (IIS)

Caution

「分離トポロジ」の Web サーバとして動作するマシンにおいて、WebOTX Web サーバを利用するためには WebOTX Application Server のライセンスが必要です。
サポート OS は WebOTX AS に準拠します。詳細は「1. 動作環境」の「ソフトウェア要件」のオペレーティング・システム (OS)を参照してください。

- 複数バージョンインストールを行う場合の注意

本製品は複数の WebOTX 製品バージョンの同時インストールをサポートしていますが、対応する製品と共存可能な対象バージョンについて、「1.動作環境」-「複数バージョンインストール」に記載された内容を確認してください。既に他のバージョンの WebOTX 製品がインストールされている場合は、その製品のサービス群を停止した後にインストール作業を行ってください。

インストール

(1) DVD-ROM の挿入とインストーラの起動

WebOTX メディアの DVD-ROM を DVD-ROM ドライブに挿入するとインストールメニュー画面が表示されます。[WebOTX Administrator V10.1]を選択し、「Install」ボタンを押してください。

DVD-ROM を挿入しても画面が自動的に表示されない場合は、エクスプローラで下記のいずれかを実行してください。(次の画面は DVD 媒体を挿入した場合の画面です。)

<ドライブ>:\\$wo_setup.exe

<ドライブ>:\\$x86\\$ADM\\$setup.exe (32 ビット OS の場合)

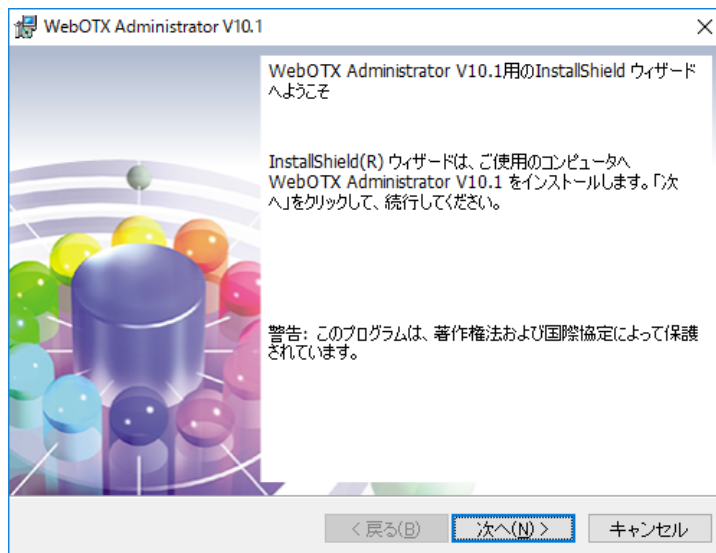
<ドライブ>:\\$ADM\\$setup.exe (64 ビット OS の場合)

※ <ドライブ>は、DVD-ROM ドライブのドライブ文字です。



(2) [WebOTX Administrator V10.1 用の InstallShield ウィザードへようこそ]画面

Windows インストーラが起動し「インストールの準備中」というメッセージが表示されたあと次の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



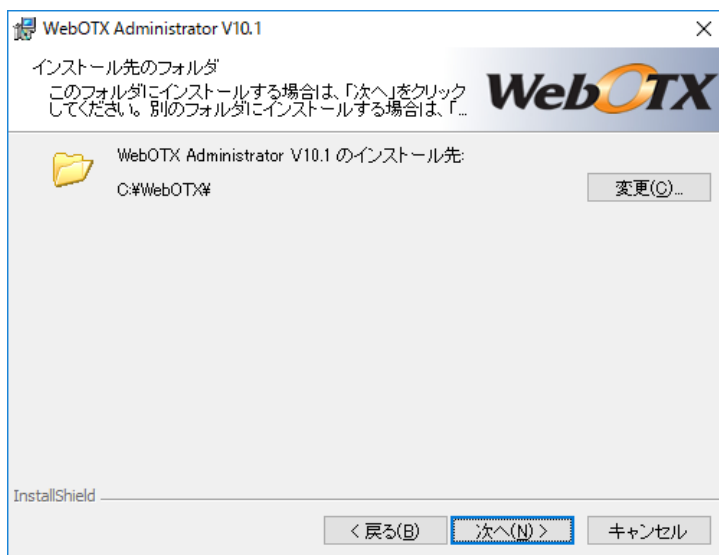
(3) [ライセンス情報]画面

[ライセンスキー] ボックスに、製品に添付されている「ソフトウェア使用認定証」の「製品番号」に記載されている 19 桁の番号を正しく入力します。入力した情報に間違いがなければ「次へ」ボタンを押してください。



(4) 【インストール先のフォルダ】画面

インストール先フォルダを決定し「次へ」ボタンを押してください。インストール先フォルダを変更する場合には「変更」ボタンを押してください。他の WebOTX 製品がすでにインストールされている場合、同じフォルダを指定してください。

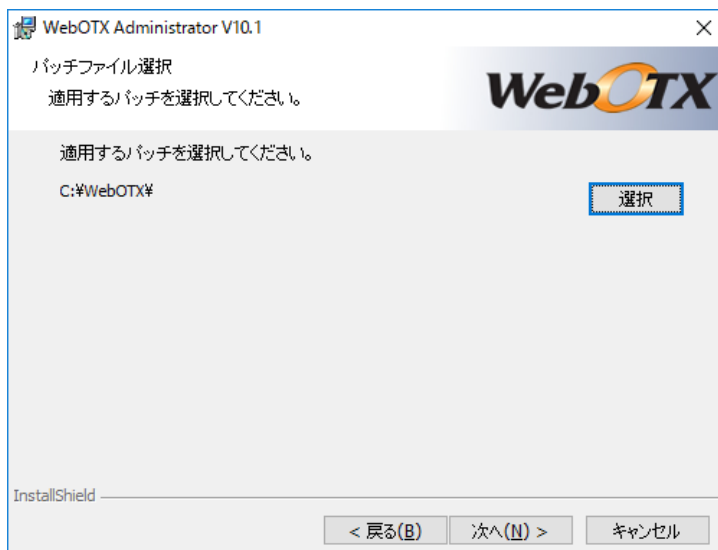


(5) 【パッチ適用オプション】画面

インストール時に本製品のパッチを適用する場合、「パッチを適用する」をチェックしてください。パッチを適用しない場合、「次へ」ボタンを押して次画面に進んでください。



事前に対象マシンにダウンロードした本製品のパッチのファイルを選択し、「次へ」ボタンを押してください。



Caution

インストール後にパッチを適用することも可能です。なお、パッチの入手には WebOTX の保守契約が必要です。

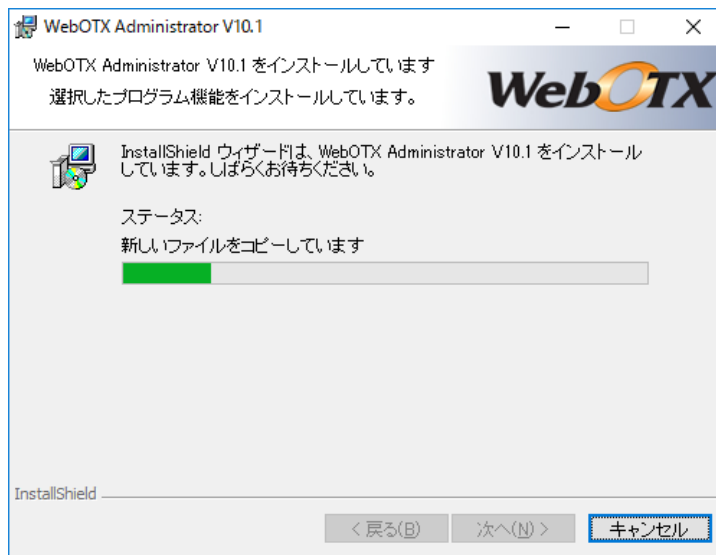
(6) [プログラムをインストールする準備ができました]画面

インストールを開始するため、「インストール」ボタンを押してください。



(7) **[WebOTX Administrator V10.1 をインストールしています]画面**

以下の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了するまでお待ちください。



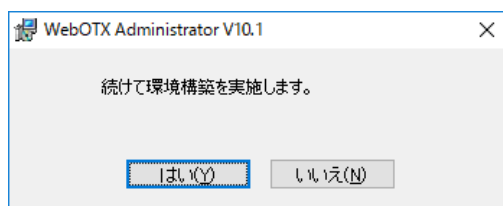
(8) **[InstallShield ウィザードを完了しました]画面**

次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを押してください。



「完了」ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。続けて環境構築を行う場合は「はい」、

後で環境構築を行う場合は「いいえ」を押してください。



環境構築

(1) 環境構築ツールの起動

インストールから連続して環境構築を行う場合、本項の作業は不要なため(2)に進んでください。

環境構築ツール(WebOTX_config.exe)は<WebOTX インストールフォルダ>\bin 配下にインストールされています。Built-in Administrator ユーザか、管理者権限のあるユーザでも「管理者として実行」により環境構築ツールを起動してください。

(2) 環境構築ツールが起動し、以下の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



- (3) 環境構築の対象製品として「WebOTX Administrator」を選択し、「次へ」ボタンを押してください。

※インストールから連続して環境構築を行う場合、本項の画面は表示されないため(4)に進んでください。

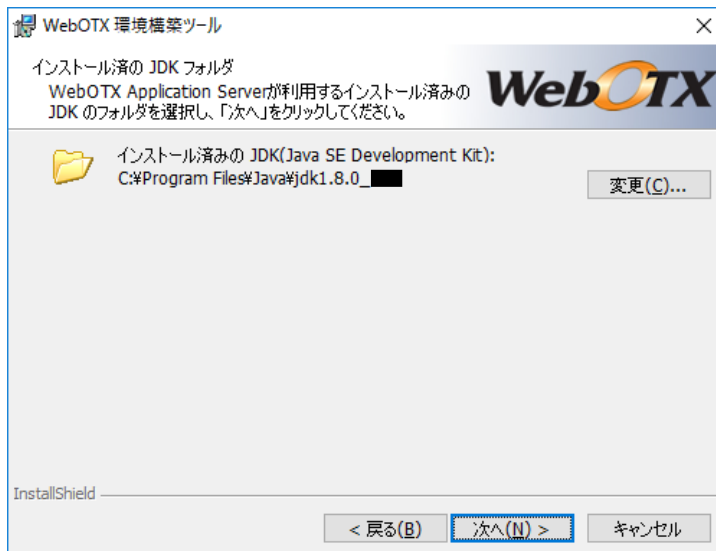


- (4) 既にインストールされている JDK のフォルダを選択後、「次へ」ボタンを押してください。

環境変数 <JAVA_HOME> を設定している場合には、その設定値が表示されます。

また、複数の JDK がインストールされている場合、最後にインストールした JDK のフォルダが表示されます。

別のフォルダを選択する場合には「変更」ボタンを押してください。



(5) Web サーバ連携画面

※32 ビット用インストーラの場合、本項の画面は表示されないため(7)に進んでください。

「Web サーバ連携を実施」チェックボックスを選択し、「次へ」ボタンを押してください。

Web サーバ連携を実施しない場合はチェックせず、(7)に進んでください。

WebOTX Application Server と Web サーバを異なるマシンで動作させ、かつ本マシンを Web サーバとして使用する場合はチェックし、(6)に進んでください。



(6) 「Web サーバ連携を実施」を選択した場合

利用する Web サーバから Apache HTTP Server か IIS を選択し、アプリケーションが動作する WebOTX Application Server への接続情報(ホスト名、AJP リスナのポート番号)を入力し、「次へ」ボタンを押してください。

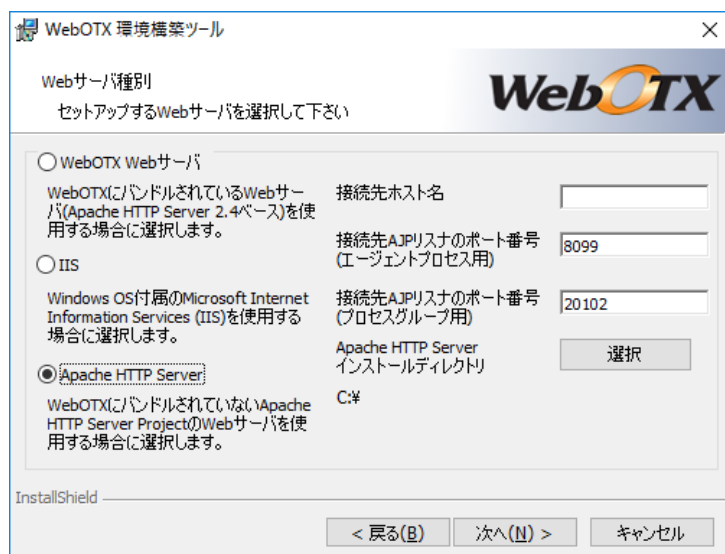
※WebOTX Web サーバは未サポートです。詳細は「インストール前の作業」の「Web サーバと Web コンテナとの連携について」を参照してください。

設定項目	説明
接続先ホスト名	アプリケーションが動作する WebOTX Application Server のホスト名または IP アドレスを入力します。
接続先 AJP リスナのポート番号 (エージェントプロセス用)	アプリケーションがエージェントプロセス上で動作する場合、接続先ホストのエージェントプロセス用の AJP リスナのポート番号を入力してください。
接続先 AJP リスナのポート番号 (プロセスグループ用)	アプリケーションがプロセスグループ上で動作する場合、接続先ホストのプロセスグループ用の AJP リスナのポート番号を入力してください。 (*)接続先が WebOTX Application Server Express の場合は不要なため、入力値をクリアしてください。

Apache HTTP サーバの場合、インストールディレクトリも設定してください。

[WebOTX Media V10 Release 1 のメディアからインストールした場合]

[WebOTX Media V10 Release 2 以降のメディアからインストールした場合]



WebOTX 環境構築ツール

Webサーバ種別
セットアップするWebサーバを選択して下さい

☐ WebOTX Webサーバ
WebOTXにバンドルされているWebサーバ(Apache HTTP Server 2.4ベース)を使用する場合に選択します。

接続先ホスト名

接続先AJPLISNAのポート番号 (エージェントプロセス用) 8099

接続先AJPLISNAのポート番号 (プロセスグループ用) 20102

☐ IIS
Windows OS付属のMicrosoft Internet Information Services (IIS)を使用する場合に選択します。

☒ Apache HTTP Server
WebOTXにバンドルされていないApache HTTP Server ProjectのWebサーバを使用する場合に選択します。

Apache HTTP Server インストールディレクトリ

選択

C:¥

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

IIS の場合、IIS サイト名も選択してください。

[WebOTX Media V10 Release 1 のメディアからインストールした場合]



WebOTX 環境構築ツール

Webサーバ種別
セットアップするWebサーバを選択して下さい

☐ WebOTX Webサーバ
接続先ホスト名

☐ Apache HTTPサーバ
接続先AJPLISNAのポート番号 (エージェントプロセス用) 8099

接続先AJPLISNAのポート番号 (プロセスグループ用) 20102

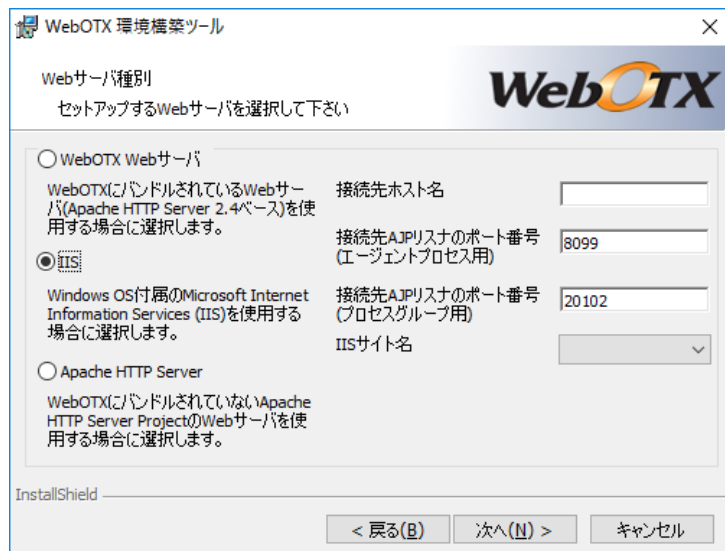
☒ IIS
IISサイト名 Default Web Site

選択

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

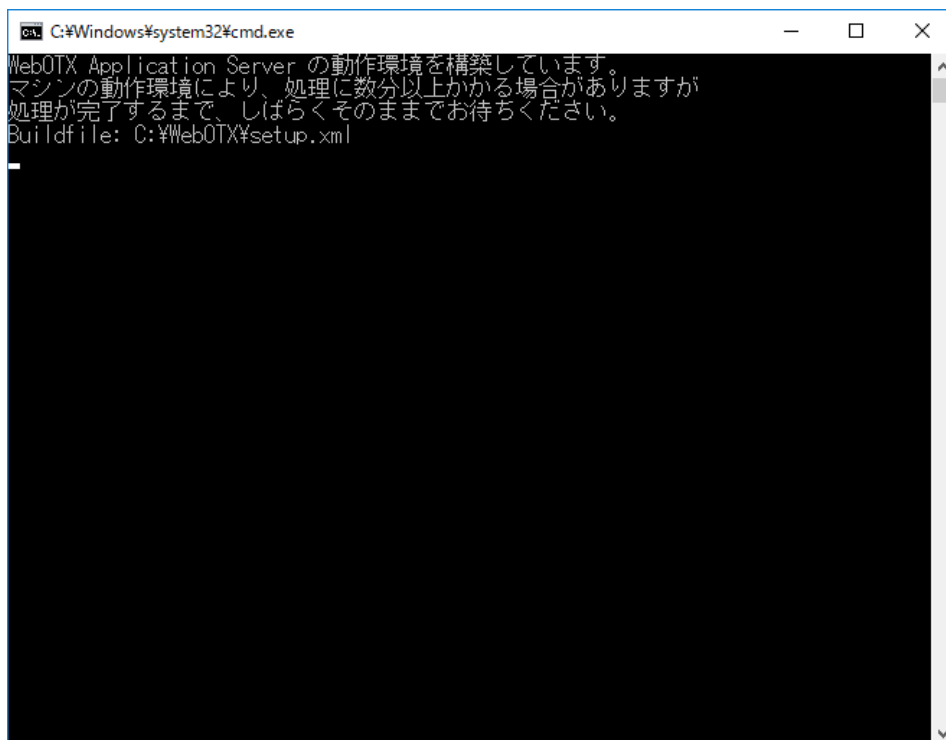
[WebOTX Media V10 Release 2 以降のメディアからインストールした場合]



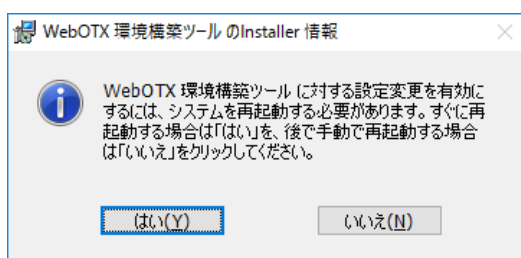
- (7) 設定を確認して問題ない場合、環境構築を開始するため「環境構築」ボタンを押してください。



- (8) WebOTX の環境構築を行うため、以下の画面が表示されます。画面が終了するまでしばらくお待ちください。環境構築の実行結果は、<WebOTX インストールフォルダ>\%ant_setup.logで確認できます。



- (9) インストールから連続して環境構築を行っている場合、コンピュータを再起動してください。
※環境構築ツールを単独で起動した場合、以下のダイアログは表示されません。



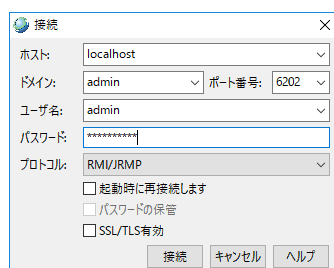
環境構築後の作業

特にありません。

3. WebOTX Application Server との接続

WebOTX AdministratorからWebOTX Application Serverに接続するための手順の説明をします。以下の手順に従って、WebOTX Application Server と接続できることを確認してください。

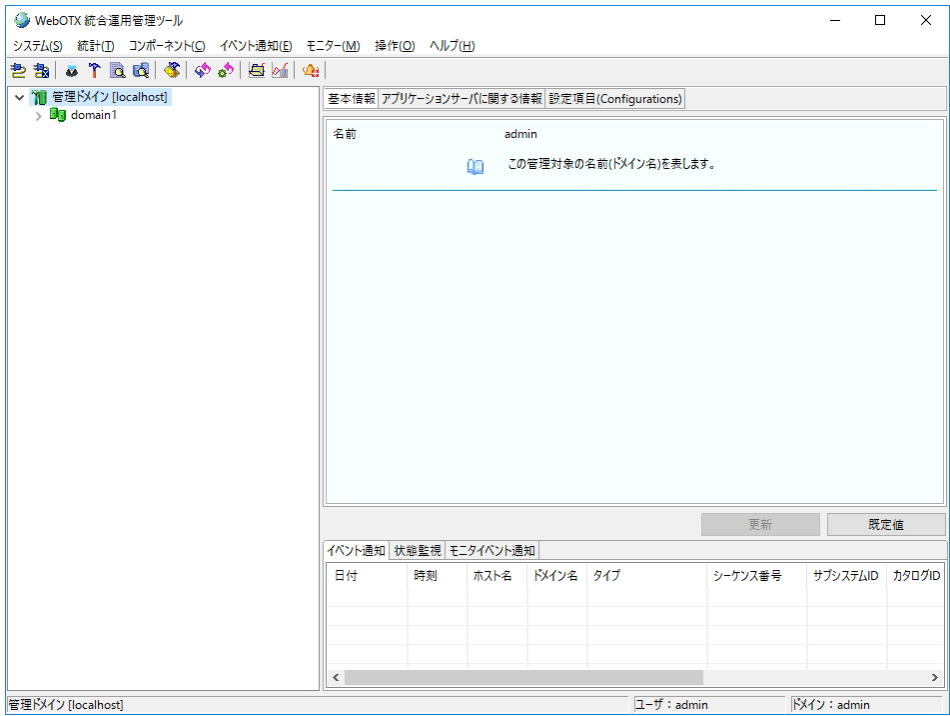
- (1)[スタート]ボタンをクリックし[プログラム]-[WebOTX 10.1]-[統合運用管理ツール]を実行し、統合運用管理ツールを起動します。
- (2)ログイン画面が表示されますので、以下に示すユーザで WebOTX Application Server にログインしてください。

A screenshot of a Windows-style dialog box titled "接続" (Connect). It contains several input fields: "ホスト:" (Host) with "localhost" selected, "ドメイン:" (Domain) with "admin" selected, "ポート番号:" (Port number) with "6202" selected, "ユーザ名:" (Username) with "admin" entered, and "パスワード:" (Password) with a masked input "*****". Below these is a "プロトコル:" (Protocol) dropdown menu showing "RMI/JRMP". At the bottom, there are three checkboxes: "起動時に再接続します" (Connect again at startup), "パスワードの保管" (Save password), and "SSL/TLS有効" (SSL/TLS enabled). At the very bottom are three buttons: "接続" (Connect), "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ" (Help).

項目	設定内容
ドメイン	admin
ホスト	接続するマシン名(自ホストに接続する場合は、localhost を指定)
ポート番号	6202
ユーザ名	admin
パスワード	adminadmin
プロトコル	'RMI/JRMP' または 'JMXMP'

「起動時に再接続します」チェックボックスにチェックを入れると、次回起動時に、前回接続していたドメインに再接続を行います。また、「パスワードの保管」チェックボックスにチェックを入れると、パスワードがシステムに保管され、次回接続時にパスワードの入力が不要になります。「SSL/TLS 有効」はドメインのセキュリティ設定にあわせてチェックします。ドメインのセキュリティが有効な場合、チェックを入れてください、ドメインのセキュリティが無効な場合、チェックを入れないでください。ドメインのセキュリティが有効かどうかはサーバ管理者に連絡してください。

(3) ログインに成功すると、次の画面が表示されます。



マウスで各ノードを選択し、設定内容を確認できます。各ノードを選択した状態でマウスの右クリックを実行すると、実行可能な操作の一覧が表示されます。

4. サイレントインストール

コマンドプロンプトからコマンド引数を設定してインストーラ(setup.exe)を実行することにより、サイレントインストールと環境構築を行うことが可能です。

デフォルト値でサイレントインストールと環境構築を行う場合に設定するコマンド引数は次の通りです。

※デフォルト値の場合、環境構築完了後に OS 再起動します

<DVD ドライブ>:¥ADM¥setup.exe /v"LIC_KEY=¥"Administrator のライセンスキー¥" /qn"

デフォルト値以外の値を設定する場合は、次のプロパティ情報を /qn の前に追加してください。

プロパティ	説明
INSTALLDIR=¥"WebOTX インストール先¥"	INSTALLDIR には、WebOTX インストール先を設定します。このプロパティを省略した場合、<Windows ドライブ>:¥WebOTX にインストールされます。
JAVA_HOME=¥"JDK インストール先¥"	JAVA_HOME には、JDK インストール先を設定します。このプロパティを省略した場合、以下の順に JDK のパスを検索します。 1. 別の WebOTX 製品のインストール時に指定された値 2. ユーザ環境変数「JAVA_HOME」に設定された値 3. システム環境変数「JAVA_HOME」に設定された値 4. レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥JavaSoft¥Java Developement Kit¥CurrentVersion に記載の JDK のパス
LIC_KEY=¥"WebOTX Application Administrator のライセンスキー¥"	LIC_KEY には WebOTX Administrator のライセンスキーを入力します。本プロパティは省略することはできません。
REBOOT=¥"ReallySuppress	REBOOT に ReallySuppress を指定することで、サイレントイン

s¥"	ストール後の OS 再起動を抑制することができます。
IS_WEBSEVER_CONFIG =¥"YES NO¥"	IS_WEBSEVER_CONFIG には Web サーバ連携設定を行うか否かを設定します。Web サーバ連携を実施する場合は YES を指定します。このプロパティを省略した場合は NO が適用されます。
● 以下は IS_WEBSEVER_CONFIG に YES を指定した場合に使用するプロパティです。	
SEPARATE_WEBSEVER_T YPE=¥"IIS Apache¥"	SEPARATE_WEBSEVER_TYPE には使用する Web サーバの種類を指定します。IIS を使用する場合は IIS、Apache HTTP Server を指定する場合は Apache を指定してください。このプロパティを省略した場合は Apache が利用されます。
SEPARATE_HOST_NAME =¥"連携先ホスト名または IP ア ドレス¥"	SEPARATE_HOST_NAME にはアプリケーションが動作する連携先のホスト名または IP アドレスを指定します。必ず指定してください。
SEPARATE_AJPLSN_POR T=¥"連携先ポート番号¥"	SEPARATE_AJPLSN_PORT にはアプリケーションが動作するホストの AJP リスナ(エージェントプロセス用)のポート番号を指定します。
SEPARATE_AJPLSN_POR T_PG=¥"連携先ポート番号 ¥"	SEPARATE_AJPLSN_PORT_PG にはアプリケーションが動作するホストの AJP リスナ(プロセスグループ用)のポート番号を指定します。連携先で動作する Application Server が Standard の場合は指定してください。Express の場合は指定不要です。
SEPARATE_IIS_SITE_NA ME¥"IIS サイト名¥"	SEPARATE_WEBSEVER_TYPE に IIS を指定した場合に連携する IIS サイト名を指定します。IIS を使用する場合は必ず指定してください。
SEPARATE_APACHE_INS T_DIR=¥"Apache インストー ルディレクトリ¥"	SEPARATE_WEBSEVER_TYPE に Apache を指定した場合に連携する Apache HTTP Server インストールディレクトリを指定します。Apache HTTP Server を使用する場合は必ず指定してください。

5. アンインストール

アンインストール

(1) アンインストールの開始

「アプリケーションの追加と削除」から「変更」ボタンを押します。

または、WebOTX DVD-ROM を DVD-ROM ドライブに挿入して、アンインストールする製品を選択して「Uninstall」ボタンを押すことでもアンインストールを始められます。インストーラの起動方法については「2. インストール方法」を参照してください。

(2) [WebOTX Administrator V10.1 用の InstallShield ウィザードへようこそ]画面

Windows インストーラが起動し、「インストール準備中」というメッセージが表示されたあと、次の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



(3)[プログラムの保守]画面

アンインストールを行うために「削除」を選択し「次へ」ボタンを押します。



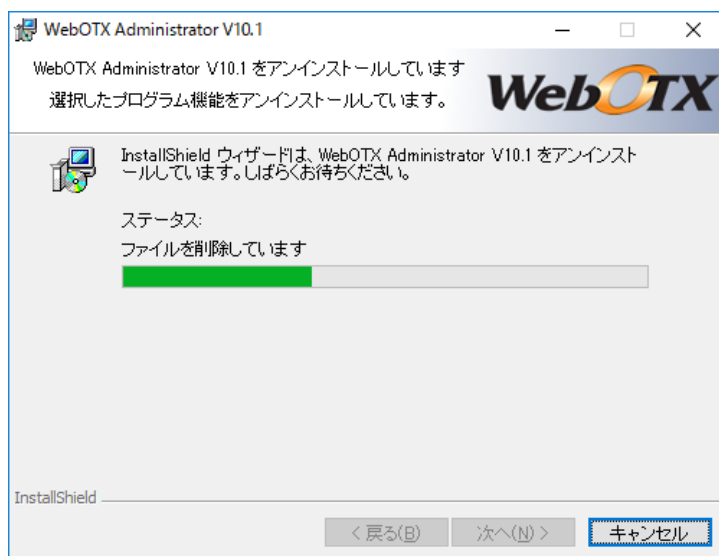
(4)[プログラムの削除]画面

アンインストールを開始するため、「削除」ボタンを押します。



(5)[WebOTX Administrator V10.1 をアンインストールしています]画面

次の画面が表示され、ファイルの削除が始まります。削除が終了するまで時間がかかりますので、しばらくお待ちください。



(6)[InstallShield ウィザードを完了しました]画面

次の画面が表示されたら、アンインストールは完了です。「完了」ボタンを押します。



6. 注意事項

- コンピュータの再起動
インストールおよび環境構築後、運用を行う場合には必ずコンピュータの再起動を行ってください。コンピュータを再起動しないと、本製品は正常に動作しません。
- 各 WebOTX 製品の複数混在環境
各 WebOTX 製品のインストールにおいて、既に他の WebOTX 製品がインストールされている場合、「インストール先フォルダ」には同じフォルダを指定してください。
- 「アプリケーションの追加と削除」で「アンインストール」ボタンを選択した場合、アンインストールの画面がすべて表示されずにアンインストールが始まります。
- アンインストールは、必ず Administrators グループに所属した管理者権限があるユーザで実行してください。
- アンインストール時に、インストールフォルダにディレクトリやファイルが残る場合があります。アンインストール完了後、すべて削除してください。

その他の注意制限事項に関してはマニュアルを参照して下さい。